



9 戸島光孚《双鶏置物》

大正五年（一九一六）

蒔絵

総三九・六 × 八三・五 × 五九・五

大正四年の大札を祝って、その翌年に堂上華族より献上された置物。木胎に蒔絵で装飾しており、脚は銀製で細かな彫金が施される。蒔絵は京都の蒔絵師、戸島光孚（一八八二〜一九五六）による。下図は山元春挙、彫刻は国安稲香、塗りは岩村貞蔵と、いずれも京都の作家が担当している。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan